

08 年活動方針(案)

「万引防止実践講座」の地方開催と組織化に向けて

通報ルールの標準化への取り組み


万防機構会員の(社)全国警備業協会様との密接な連携の下、表記課題の実現に向け大きく踏み出すことが可能となりました。

1. 「万引防止実践講座」の地方開催と組織化に向けて

〔1〕昨年 11 月、初の講座を東京にて開催

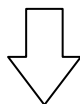
昨年 11 月 27 日、ホテルグランドアーク半蔵門にて「万引防止実践講座」を、主催:(社)全国警備業協会、協賛:全国万引犯罪防止機構にて開催しました。「取りあえず、一度やってみよう!」と、全警協さんの発案と森山委員の斡旋により、実質 2 週間程度の準備期間にも拘わらず定員 100 名を大きく超える 120 名余の参加があり、店舗関係者の万引問題への関心の高さと被害の深刻さを実感しました。

[開催概要]

- ・ 日 時 :平成 19 年 11 月 27 日(火)10:00-16:00
- ・ 場 所 :グランドアーク半蔵門
- ・ 参加者:120 名
- ・ 主な内容:
 -  最近の犯罪情勢と店舗における犯罪情勢
隙のない店舗づくり

防止対策
不適正な対応と処理
万引き犯人への対応

・ 講師：全警協研修センター教官



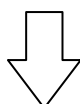
受講者アンケートによると、より実践的な内容が求められている

※ 万引されにくい店づくり

- 従業員教育(お客様への接し方、不審者の見分け方など)
- トラブル事例
- 店舗の成功事例、失敗事例

※ 万引犯への対応

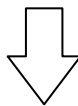
- 逮捕時に法的にやって良い事、悪い事の具体的事例
- 誤認時の対応
- 実演
- ロールプレイング
- 警察への通報の仕方
- 被害届の実践



全警協様にてカリキュラムの再検討

2 日間コース

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>■1日目(経営者、部門長向け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万引の実態と社会背景 (問われる経営姿勢、企業の社会責任) ・保安業務の意義と重要性 ・万引されない店作り (ハード・ソフト面、従業員教育) ・参考事例 ・業務に係る法令解釈 (関係法令・法令行為と事実行為) | <p>■2日目(店長、保安担当者向け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な現場対応 (監視・声掛け・任意同行・事実確認 etc) ・グループ討議 (事例に関する討議、研究発表) ・ロールプレイング(実技訓練) (不審者の発見方法、声掛けの方法・任意同行の方法、事実確認の方法 etc.) ＊1グループ25人程度 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



[2]東京にて再度、開催

万引犯罪が経営ひいては社会に与える影響の大きさを経営者が認識し、万引防止に毅然とした姿勢を示すことを啓発し、併せて万引防止の具体的な対策、ノウハウを伝授するためには2日間のコースが必要であるとして、全警協の野村研修センター長を中心にカリキュラムの再編成を検討して頂きました。これをベースに再度、東京にて2日間コースの万引防止実践講座を開催します。

[開催概要]

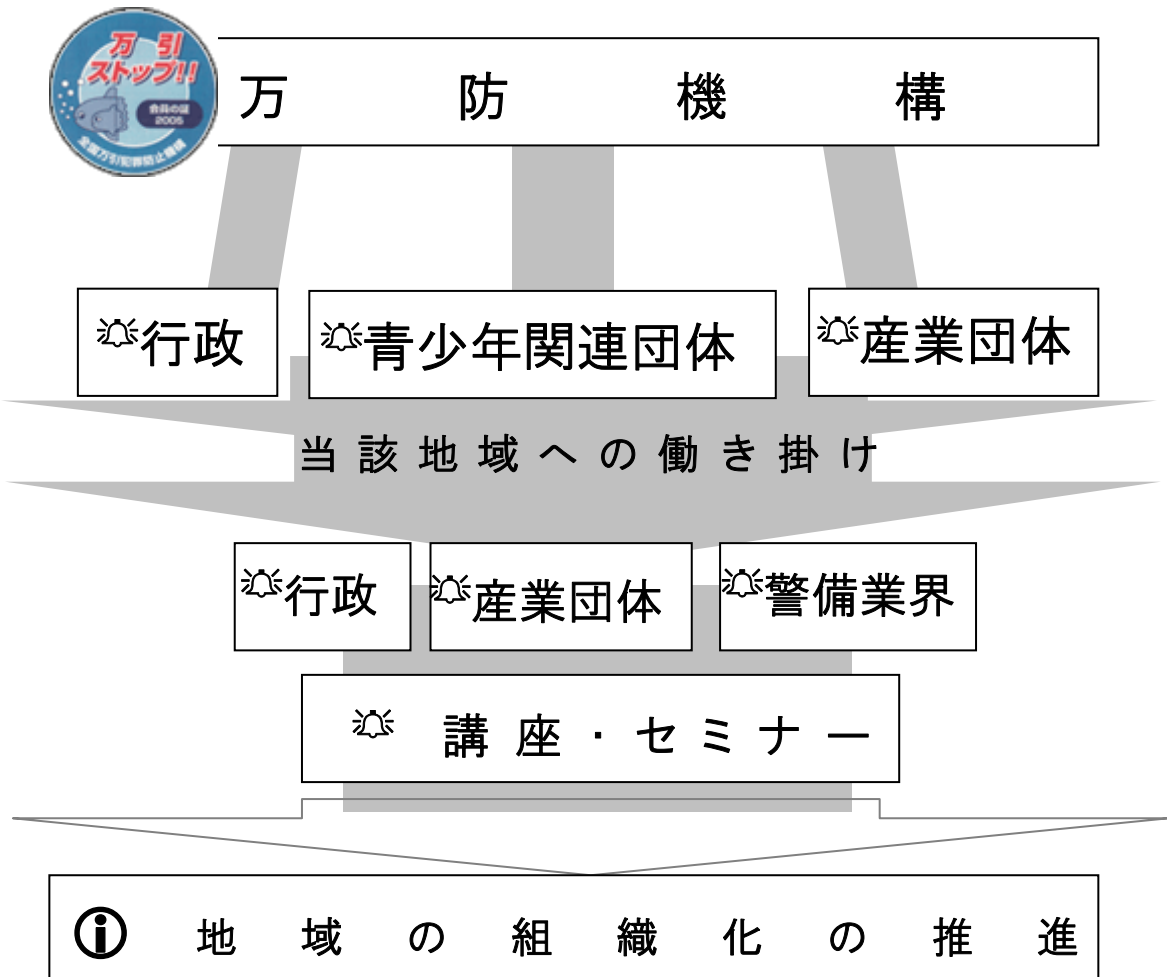
- ・日時：平成20年3月17日(月)18日(火)10時～16時
- ・場所：ホテル・グランドアーク半蔵門 4F「富士」
- ・主催：全警協様と協議の上、決定したいと思います。案内～請求の流れを考慮すると万防機構が責任をもって開催する案も考えられません。
- ・定員：100名(最大120名)
- ・受講費：8千円～1万2千円／人／日(要検討)
- ＊2日間の開催コストは約120万円(会場費、講師(延べ12人日)、資料代)。地方開催の場合は交通費、宿泊費が加算される。これらを考慮して設定したい。

〔3〕地方開催と組織化への推進

3月の東京開催を踏まえて、「万引防止実践講座」のバックを全警協様と確立し、出来るだけ早期に地方開催を実現したいと思います。

地方における「万引防止実践講座」の開催は、一定規模の参加者が求められることから、万引機構の理事が存在する地域（愛知県、新潟県等）や、県警主導の「万引防止協議会」が設置されているなど、受け皿が既にある地域を優先して考えていきたいと思っています。

加えて、講座・セミナーの開催を契機に地域における関係団体の連携を深めることを追求してみたいと思います



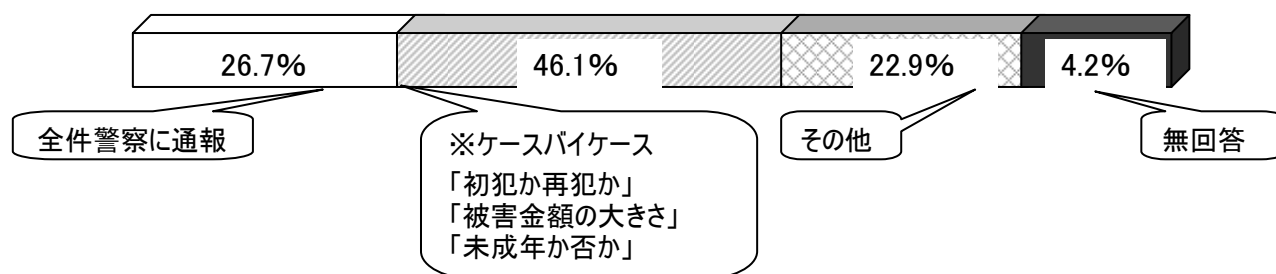
2. 通報ルールの標準化

平成 16 年 7 月、東京都万引防止協議会(議長、猪狩俊郎弁護士)は「万引をさせないための行動計画」を公表、少年に万引きを繰り返さないためにも、「販売店は警察に少年の身柄を確実に引き渡す」とし、その後の学校及び保護者との連絡を踏まえて、地域ぐるみで万引犯罪を一掃することを呼びかけております。

万防機構もこれを踏襲し、少年、成人に関わらず、すべての万引犯を警察に引き渡すことで社会全体の問題として位置づけることが結果として万引き犯罪撲滅の有効な手段と考えております。

しかし、実態は万防機構が実施した「全国小売業万引被害実態調査」(平成 19 年 6 月報告)によれば、そうした対応は必ずしも徹底していないことがわかります。

【問 12-1 万引き犯罪を発見した後の処理】



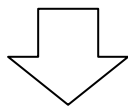
さらに、全警協様監修の「店舗責任者の保安業務管理」においても、「本来現行犯として逮捕した場合には、事情聴取するなど取調類似行為を行うことは認められていないばかりか、直ちに警察官等に引き渡さなくてはならない」としており、説諭処理などの「内部処理には限界がある」と指摘しております。

しかし現実には、警察への届け出に要する時間と手間が掛かり過ぎることから、説諭等で済まそうとする販売店が多いのです。

【上記、実態調査に寄せられた意見】

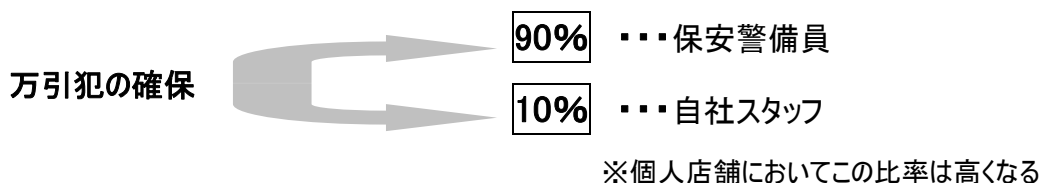
- 「長時間調書をとられて成果はなかった」
- 「被害商品の特定に延々と時間を取られた」
- 「警察官に勝手に示談にされた」

そのような中、07年6月、北海道警は、万引防止活動に取り組んでいる販売店が集う「北海道万引防止ウィークネットワーク」が、発生した万引の全件通報を宣言したのを受けて、警察官ができる限り店舗に出向き書類を作成するよう各警察署に指示するなど積極的な姿勢を示して注目されました。



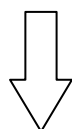
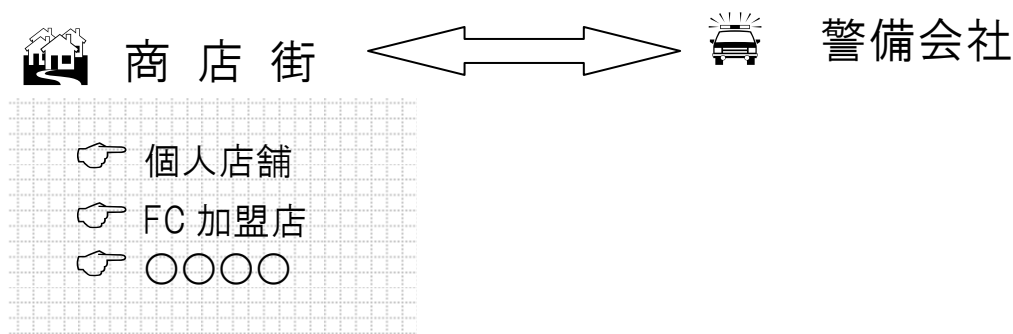
全件通報を可能にする仕組み作りを！

そこで全件通報を実施するためには、届出業務の簡素化または第三者による代行を可能とする仕組み作りが求められます。



保安警備員が常駐している店舗であれ、自社スタッフでしか対応できない店舗であれ、警察への届出及び引渡し業務を警備会社に委任する道を追求したいと思います。

【例】商店街と警備会社との連携



・警備員を雇用する財力が個々の店にはない

発生の都度、警備会社保安員が急行
一切の経費は万引犯に請求→東京地裁の判決例

中村有希さん(普及推進委員)

06年夏より癌の闘病生活に入っており、その間、保安員としての半生記を出版することを励みに頑張っています。

今春を目途に出版にこぎ着けたいと思います。その際はご協力を宜しく願います。